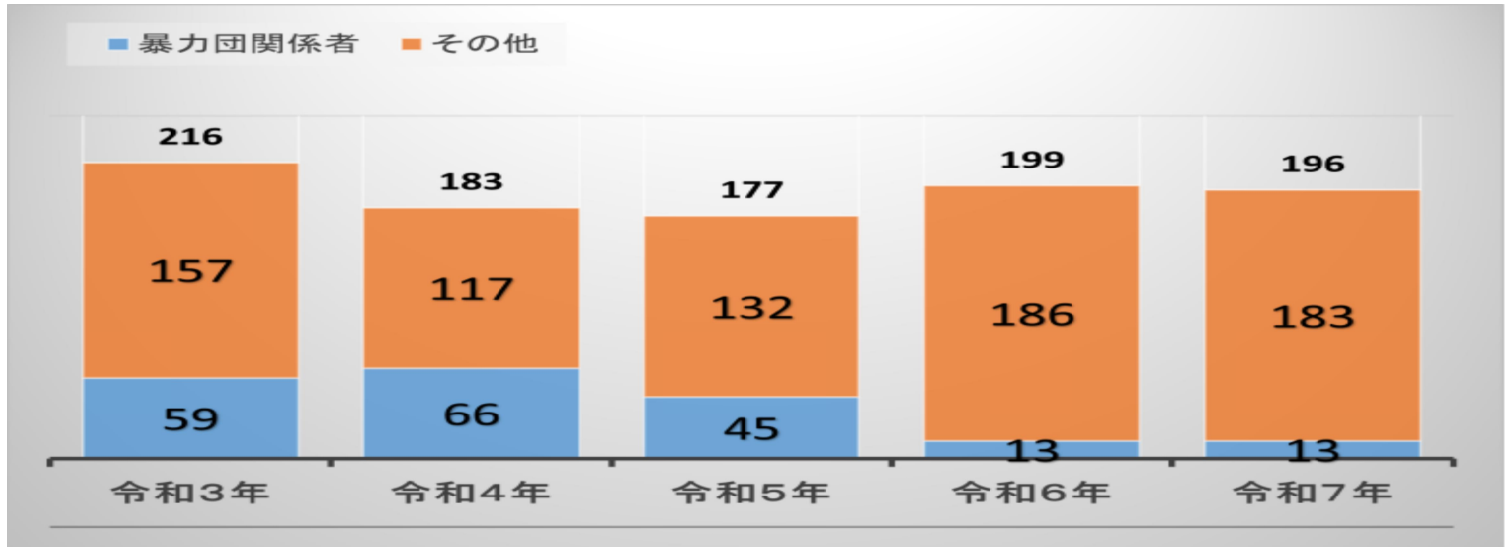


県内の薬物情勢

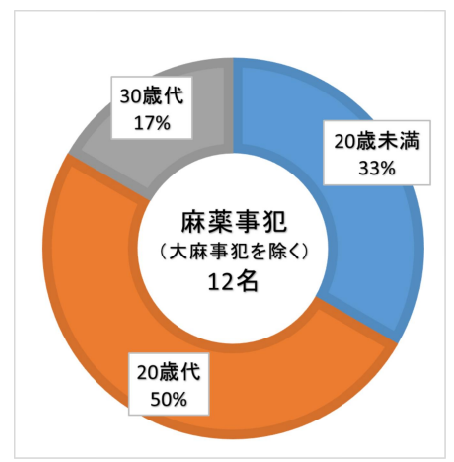
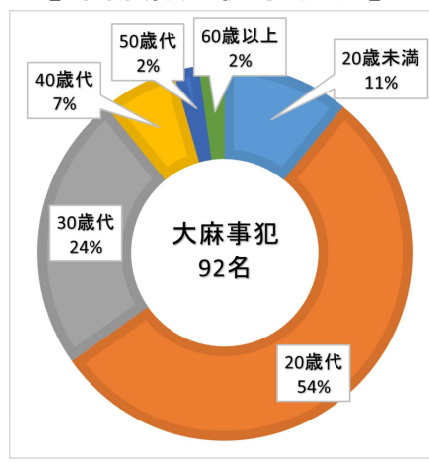
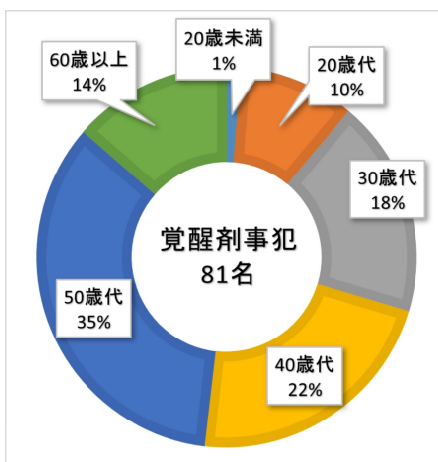
薬物検挙人員の推移



- 奈良県における薬物事犯の検挙人員は、ここ数年は200人弱で推移しています。
- 令和7年中の薬物事犯の検挙人員は、196人（前年比-3人）であり、男女別では、男性が169人、女性が27人となっています。

令和7年中の薬物事犯検挙状況

【年齢層別検挙状況】



- 令和6年においては大麻事犯と覚醒剤事犯は同数となりましたが、ここ数年は大麻事犯が覚醒剤事犯を上回る状況にあり、大麻事犯の検挙件数は高いままです。
- 覚醒剤事犯は50歳代が最も多く、40歳代と50歳代で全体の半数を占めています。
- 大麻事犯は20歳代が最も多く、20歳代以下で全体の6割を超えています。
- 麻薬事犯は令和6年に急増し、20歳代以下で全体の8割を占めています。

大麻は、他の違法薬物を使用するきっかけとなる「ゲートウェイ・ドラッグ」であり、若者を中心に大麻の乱用が社会問題となっています。

大麻については、インターネット等において「有害性がない」などの誤った情報が氾濫していますが、若者の脳に対して影響が大きいことも判明しています。

「1度だけ」という好奇心や遊びのつもりでも、薬物の依存症によって、自分の意思では薬物乱用をやめることができなくなります。